

業績の概要

当第2四半期累計期間における国内医薬品市場は、後発品のさらなる普及・進展による影響に加え、企業間競争も一層激化するなど、引き続き厳しい状況下にありました。

こうした状況のなかで当社は、国内外での世界最先端技術を活用した独創的かつ画期的な医薬品の創製を目指すとともに、ライセンスによる質の高い新薬候補化合物の拡充に努めるなど、研究開発活動の一層の強化に取り組みました。また、主要製品を中心とした研究会・学術講演会の積極的な開催や学術情報活動の充実を図る

とともに、経営全般にわたり効率化に努めました。これらの結果、当第2四半期の業績は、以下の様になりました。

●売上高

前年同期比64億円(10.0%)増の702億円

一昨年12月に新発売しました2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は、積極的な情報提供活動により売上は期初の計画を上回って順調に推移しました。本剤は本年5月に α -グルコシダーゼ阻害剤との併用療法の効能が、9月にはインスリン製剤との併用療法の効能がそれぞれ追加承認されたことで、現在市販されているDPP-4阻害剤の中では、併用可能な血糖降下剤の種類が最も多い薬剤として、患者さんにより広く選択肢を提供できるようになりました。またグラクティブ錠と同時期に発売しました、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」も、堅調に売上を伸ばしています。

なお、当第2四半期において、7月にアルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」を、さらに9月には、冠動脈CTに

売上高	701億7千万円 (対前年同期比 10.0%増)
営業利益	176億7千8百万円 (対前年同期比 35.0%増)
経常利益	191億9千1百万円 (対前年同期比 29.9%増)
四半期純利益	83億8千2百万円 (対前年同期比 10.1%減)

おける描出能改善剤「コアベータ静注用」と、4週に1回服用する骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠50mg」を新発売しました。これらの新製品は第3四半期以降、さらに売上に寄与するものと期待しています。

一方で、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」等は、引き続き積極的な情報提供活動により潜在市場の顕在化を図りましたが、後発品の影響などから売上は減少しました。

以上の結果、当第2四半期は前年同期比64億円(10.0%)増の702億円となりました。

●営業利益

前年同期比46億円(35.0%)増の177億円

売上原価については、売上高の増加や原価率の高い新製品の売上比率上昇により、前年同期比23億円増加しました。

販売費及び一般管理費については、研究開発費を除いた販売費及び一般管理費はコンピュータ関連費用や販売促進費の増加などから9億円増加しましたが、研

究開発費がライセンス費用の減少などにより14億円減少したことから、全体としては、前年同期比5億円の減少となりました。

これらにより営業利益は前年同期比46億円(35.0%)増の177億円となりました。

●経常利益

前年同期比44億円(29.9%)増の192億円

営業外収支は、金利収入の低下などから前年同期比2億円減少して15億円となり、経常利益は前年同期比44億円(29.9%)増の192億円となりました。

●四半期純利益

前年同期比9億円(10.1%)減の84億円

保有株式等にかかわる投資有価証券評価損を39億円計上したことから、特別損益は37億円減少しました。また法人税等が16億円増加し、四半期純利益は前年同期比9億円(10.1%)減の84億円となりました。

財政状態

●資産、負債及び純資産の状況

総資産は前期末に比べ1億円増加して4,246億円となりました。

流動資産は、有価証券が前期末に比べ77億円増加したことなどから59億円増加し、1,972億円となりました。有価証券の増加は、投資有価証券に計上していた債券について、投資期間経過に伴い、償還までの期間が9月末で1年以内となった債券を有価証券に振り替えたことなどによります。

固定資産は、投資有価証券が前期末に比べ62億円減少したことなどから58億円減少し、2,273億円となりました。

負債は、前期末に比べ1億円増加して300億円となりました。

純資産は、前期末に比べ8百万円減少し、3,946億円となりました。

●キャッシュ・フローの状況

営業活動により獲得したキャッシュ・フローは、136億円の収入(前年同期比16億円収入の減少)となりました。仕入債務14億

円減少などのキャッシュの減少要因があった一方で、税金等調整前四半期純利益153億円などのキャッシュの増加要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、61億円の収入(前年同期比17億円収入の増加)となりました。主な内訳としては、有形固定資産の取得による支出が11億円あった一方で、有価証券及び投資有価証券の取得と償還で差し引き72億円の収入がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、95億円の支出(前年同期比3億円支出の減少)となりました。これは、主に配当金の支払によるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前連結会計年度末に比べて102億円増加し、927億円となりました。

(資産、負債及び純資産の状況)

	当第2四半期末 平成23年9月30日現在	前連結会計年度末 平成23年3月31日現在	増 減
総資産	4,245億5千5百万円	4,244億4千2百万円	1億1千2百万円
純資産	3,945億6千4百万円	3,945億7千2百万円	△8百万円
自己資本比率	92.0%	92.1%	—
1株当たり純資産	3,683円57銭	3,685円23銭	△1円66銭

(連結キャッシュ・フローの状況)

	当第2四半期累計期間 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	増 減
現金及び現金同等物期首残高	825億7千7百万円	720億9千7百万円	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	136億1千1百万円	151億9千1百万円	△15億8千万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	60億6千7百万円	43億5千8百万円	17億8百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95億3千3百万円	△97億8千9百万円	2億5千6百万円
換算差額	4百万円	△4千1百万円	4千5百万円
増減	101億5千万円	97億1千9百万円	—
現金及び現金同等物期末残高	927億2千7百万円	818億1千7百万円	—

通期の見通し

●売上高

前期比101億円(7.5%)増の1,454億円

2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」や抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」などの主力製品が順調に売上を伸ばし、本年7月に新発売しましたアルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」や、4週に1回服用する骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠50mg」などの新製品も売上増加に寄与することが期待されますので、売上高は前期比101億円(7.5%)増の1,454億円となる見込みです。

主な製品の通期の売上高予想は、下記のとおりです。

売上高	1,454億円 (対前期比 7.5%増)
営業利益	362億円 (対前期比 2.8%増)
経常利益	384億円 (対前期比 2.3%増)
当期純利益	210億円 (対前期比 13.3%減)

●営業利益

前期比10億円(2.8%)増の362億円

売上高を前期比101億円(7.5%)増の1,454億円と見込む一方で、売上原価を前期比

(単位：億円)

製品名	売上高	対前期比
オバルモン錠	390	△2.7%
グラクティブ錠	260	134.0%
オノンカプセル	180	△16.4%
キネダック錠	115	△12.9%
フオイバン錠	100	△8.7%
オノンドライシロップ	80	△6.4%
イメンドカプセル	65	37.0%
ステープラ錠	65	11.2%
注射用エラスポール	47	△5.6%
注射用オノアクト	38	7.0%
リカルボン錠	40	—
リカルボン錠 1mg	22	12.8%
リカルボン錠 50mg	18	(平成23年9月発売)
リバスタッチパッチ	7	(平成23年7月発売)

(注)売上高は出荷価格ベースで表示しています。

42億円(16.8%)増の289億円、販売費及び一般管理費を前期比50億円(6.6%)増の803億円と見込み、営業利益は前期比10億円(2.8%)増の362億円と予想しています。

販売費及び一般管理費のうち研究開発費につきましては、研究開発活動の着実な進展に伴い、前期比30億円(6.9%)増の459億円となる見込みです。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、新製品発売にともなう経費増などから、前期比20億円(6.3%)増の344億円となる見込みです。

●経常利益

前期比9億円(2.3%)増の384億円

金利低下による運用収益の減少などから営業外収支が前期比1億円減の22億円程度となる見込みですので、経常利益は9億円(2.3%)増の384億円となる見込みです。

●当期純利益

前期比32億円(13.3%)減の210億円

特別損失には第2四半期と同額の投資有価証券評価損39億円を織り込むことにより、当期純利益は、前期比32億円(13.3%)減の210億円を予想しています。

ただし、四半期における投資有価証券の評価方法につきましては、四半期洗替え方式を採用しているため、平成24年3月期決算におきましては、期末日の時価により、特別損失の計上額が変動する場合、もしくは特別損失を計上しない場合があります。

中間配当金について

株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、当社普通株式1株につき、90円とさせていただきます。

連結決算報告（財務諸表）

連結貸借対照表の要旨

（単位：百万円）

科目	期別	
	前期 平成23年3月31日現在	当第2四半期 平成23年9月30日現在
（資産の部）		
流動資産	191,370	197,243
現金及び預金	22,445	20,646
受取手形及び売掛金	36,704	35,502
有価証券	103,524	111,259
たな卸資産	13,047	13,589
繰延税金資産	13,641	13,637
その他	2,015	2,611
貸倒引当金	△ 9	△ 5
固定資産	233,072	227,312
有形固定資産	48,616	48,104
建物及び構築物	22,542	22,298
土地	22,551	22,551
その他	3,521	3,254
無形固定資産	955	829
投資その他の資産	183,501	178,378
投資有価証券	167,953	161,800
繰延税金資産	5,764	5,940
その他	9,788	10,646
貸倒引当金	△ 4	△ 8
資産合計	424,442	424,555

（単位：百万円）

科目	期別	
	前期 平成23年3月31日現在	当第2四半期 平成23年9月30日現在
（負債及び純資産の部）		
流動負債	26,198	26,008
支払手形及び買掛金	5,324	4,076
短期借入金	1	1
未払法人税等	7,422	6,489
引当金	5,681	5,478
その他	7,767	9,963
固定負債	3,672	3,982
長期借入金	12	11
長期未払金	83	72
引当金	579	896
その他	2,996	3,001
負債合計	29,870	29,991
株主資本	395,754	394,589
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	435,536	419,351
自己株式	△ 74,219	△ 59,199
その他の包括利益累計額	△ 5,042	△ 4,058
その他有価証券評価差額金	4,162	5,144
土地再評価差額金	△ 8,938	△ 8,938
為替換算調整勘定	△ 266	△ 264
少数株主持分	3,860	4,032
純資産合計	394,572	394,564
負債及び純資産合計	424,442	424,555

連結損益計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
		自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日
売上高		63,778	70,170
売上原価		11,182	13,494
売上総利益		52,595	56,675
販売費及び一般管理費 (研究開発費)		39,496 (23,508)	38,996 (22,119)
営業利益		13,098	17,678
営業外収益		1,951	1,843
営業外費用		280	330
経常利益		14,769	19,191
特別損失		165	3,853
税金等調整前四半期純利益		14,603	15,338
法人税等		5,170	6,781
少数株主損益調整前四半期純利益		9,433	8,556
少数株主利益		108	173
四半期純利益		9,325	8,382

前第2四半期
累計期間
85円76銭

当第2四半期
累計期間
79円07銭

(注) 1株当たり四半期純利益

連結株主資本等変動計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	期別	前期	変動額	当第2四半期
		平成23年3月31日現在		平成23年9月30日現在
資本金		17,358	—	17,358
資本剰余金		17,079	—	17,079
利益剰余金(注)		435,536	△16,184	419,351
自己株式		△74,219	15,020	△59,199
株主資本合計		395,754	△1,164	394,589
その他有価証券評価差額金		4,162	981	5,144
土地再評価差額金		△8,938	—	△8,938
為替換算調整勘定		△266	2	△264
その他の包括利益累計額合計		△5,042	984	△4,058
少数株主持分		3,860	172	4,032
純資産合計		394,572	△8	394,564

(注) 利益剰余金の変動要因

四半期純利益	8,382百万円
剰余金の配当	△9,541百万円
自己株式の処分	△15,025百万円